

平成23年度学校関係者評価委員会報告書

世田谷区立深沢中学校(平成24年3月)

1 アンケートごとの評価

I. 生徒のアンケートより

全学年で362通の回答があった。今回は374通のアンケートを配布したので、回収率は97%である。
生徒の教育活動に対する評価は、全体的には肯定的回答が否定的回答を上回っている。「授業の内容はよく理解できる。」の項目で肯定的意見が昨年度より1ポイント上昇し77%、「学校全体で部活動は充実している。」では3ポイント微増し76%。「毎日の学校生活が楽しい」で、昨年度と同じ71%となっている。また、進路指導に関わる部分は上級学年になるに従い評価はよくなっている。しかしながら、「将来の生き方や進路について先生と相談する機会は十分ある」では肯定的意見が3ポイント減少し44%、「先生は誰に対しても公平である。」では昨年度より3ポイント微増の50%、「進路に関する情報を十分提供してくれる。」では昨年度から7%微増の54%と50%に達したものの、なお低い割合である。今後、さらなる指導や取り組みを工夫改善しなければならない。

II. 保護者のアンケートより

全学年で309通の回答があった。今回は374通のアンケートを配布したので、回収率は83%である。
全体的には、昨年度とほぼ同様の値で、肯定的回答の割合が高く、特に、3.学校行事、6.学校運営、7.教職員、9.広報活動・情報提供、11.学校全般については6割~8割の肯定的回答が寄せられ、同じ傾向を示している。教育活動に対する評価の、進路情報の以下の項目で肯定的意見が昨年度は50%以下であったが、「子どもたちの将来の生き方や進路について考えさせる指導が充実している。」が7ポイント増の50%。「本校の職員は、親身になって進路の相談にのっている。」は2ポイント微増の50%と、ともに50%に達した。しかしながら進路情報(キャリア教育)に関しては、保護者が求めている情報と学校の提供する情報との意識の差を埋める工夫改善を行うとともに、一人一人の生徒の立場になってともに考えていく必要である。

III. 地域の方のアンケートより

学校協議会委員(警察、出張所、消防、町会長、青少年委員)など55名にアンケートを送付し、31名から回答をいただいた。回収率は57%である。
地域からの教育活動に対する評価は、ほとんどの項目について肯定的回答を寄せられている。しかしながら「分からぬ」との回答が20%前後に上る項目がいくつか見られ25%~30%「分からぬ」とする項目が3つもある。情報提供に関して更なる改善が必要である。

「本校のホームページは充実している」では肯定的な回答がおととより低下している。

2 評価項目ごとの評価

I. 重点目標について

「学校の重点目標が明確である」という評価項目では肯定的な評価は、保護者において66%、地域において91%、教職員(「前年度の学校評価を踏まえ、重点目標を具体的かつ明確に設定している」)において90%である。保護者の評価で思わないの割合が昨年度より4ポイント減少し11%で、わからないの割合が21%である。学校の重点目標についてその目的も含め、保護者に周知していく努力を要する。

II. 地域とともに子どもを育てる教育について

- 「地域の人材や施設を教育活動に活かしている」の項目で、保護者の肯定的な割合は57%であり、地域の方の評価は64%で十分とは言えない。わからないの割合が保護者は23%、地域は29%と大きな割合を示している。地域の人材や施設をどのように活用していくか検討・改善していく同時に、地域と関連する教育活動について周知していく努力を要する。
- 保護者における学校協議会の項目は肯定的評価が60%に対し、わからないという評価が30%と学校協議会の内容等を地域や保護者へ周知していく必要がある。
- 情報発信として、ホームページは地域に対して有用なものといえる。
- PTA活動へは、大変良好な評価を得ている。保護者の学校への協力体制が継続的に行われているものといえる。
- 学校は地域の活動や行事によく協力しているの項目の肯定的評価は、保護者が78%、地域が84%と肯定的評価が高い。

III. 未来を担う子どもを育てる教育について

- 概ね良好な評価である。
- 進路指導(キャリア教育)における保護者の評価は、肯定的評価結果の割合は昨年度よりも微増となつたが、依然満足できる値とはいえない。
- 学習指導においては、生徒の「授業の内容がよく理解できる。」の項目で肯定的評価が77%と数値目標を超える値となつた。学習活動は学校の中心的な活動であり、さらに向上させていく努力をお願いする。また、学年毎で見た評価の値では、1~3年生の学年差がほとんどなくなつたことは努力の結果であり、今後も維持していくことが課題である。
- 教科「日本語」は、教職員の評価が低く、指導体制の改善や研修等を行い、工夫・改善等を強力に推進していくことが課題である。
- 生活指導においては、全般的に良好な評価である。
- 道徳教育においては、教職員の評価が昨年度同様に低く、年間指導計画等をより生徒の実態に合わせて計画し、改善を図ることが重要である。
- 学校行事においては、高い評価である。事前・事後の活動・指導を含め、学校の継続的な努力の結果といえる。
- 相談活動においては、昨年同様に評価が高く、生徒・保護者と学校との信頼関係が保たれているといえる。
- 部活動においては、教員数・施設面の制約がある中、保護者・生徒の高い評価を得ている。
- 先生について、「先生はだれに対しても公平である」はやや改善がみられるものの50%であり、教職員のより一層の共通理解を図っていくことを要する。

IV. 信頼と誇りのもてる学校づくりについて

- 概ね良好な評価である。
- 校長のリーダーシップのもと(保護者・地域・教職員において全て高い肯定的評価である)、教職員が教育活動に励んでいる様子が、アンケートや学校公開授業等を通して観える。
- 安全指導や安全管理は適切に行われている。大規模災害時の学校の基本的な対応について保護者への周知が必要である。
- 地域アンケートにおいても、学校運営への評価はおおむね良好といえる。

V. 教育環境の整備について

- 良好な評価である。
- 上記IVと同じく、保護者の周知の度合いが高いとはいえない。、教育内容(ソフト面)だけではなく、施設・設備等(ハード面)、様々な内容を保護者へ積極的に情報提供し理解を深める努力が望まれる。

VI. 学校生活全般について

- 良好な評価である。
- 生徒アンケート「毎日の学校生活が楽しい」71%、「深沢中が好きである」67%、保護者アンケート「本校の子どもは学校生活が楽しいと感じている」84%、独自項目「本校の職員は、子どもたちを大切にしている。」82%等の結果は昨年度とほぼ同じ値であり、生徒・保護者とも学校生活の充足度は依然高いといえる。
- 昨年度は多くの項目で1・3年生の数値に比べ2年生の数値の減少幅が大きいことが課題であったが、今年度改善されていることは大いに評価できる。

VII. 数値目標について

・今年度は3項目とも目標値を上回り達成された。

この水準に到達できることを評価するとともに、継続して指導体制・方法の整備が望まれる。

①授業の内容はよく理解できると思う生徒の割合75%以上にする <評価結果 (生徒 1 - (1) 77%)>

②地域の活動や行事によく協力しているという地域の割合75%以上を目指す <評価結果 (保護者 9 - (2) 84%)>

③部活動は充実しているという生徒の割合75%以上を目指す <評価結果 (生徒 5 - (1) 76%)>

VIII. 「学び舎」の目標について（今年度より独自項目生徒アンケート実施）

・学び舎で設定した数値目標の結果「①の自分にはよいところがあると思いますか。」は発達段階を考慮しても低い値であり、次年度への課題である。

①自分にはよいところがあると思いますか。 <評価結果 53%>

②友達と学校で活動することは楽しいですか。 <評価結果 86%>

③自分が住んでいる地域は好きですか。 <評価結果 78%>

3 全方位的な点検・評価について

I. 全方位的な点検・評価の方法は適切であるか

・適切に実施されたといえる。

II. 全方位的な点検・評価の結果の内容は適切であるか

・適切な内容といえる。

III. 全方位的な点検・評価の結果を踏まえた改善方策は適当であるか

・報告書並びに説明は、改善方策を含め適当なものである。

4 学校の課題及び学校への提言

- アンケート集計結果より、全体的には良い評価結果である。今後も継続して努力し、さらなる向上を目指(推進)していくこと。
○昨年度大きな課題となっていた学年毎の集計結果で、多くの項目で2年生の肯定的評価の値が保護者・生徒共に低くなっていたが、
今年度改善され学年毎による数値の大きな差異がかなり減少したことは大きく評価できる。このことを今後も維持し続けて行くよう、
取り組みさらなる改善を図っていくこと。
○地域との連携においては、地域ボランティア活動等取り組みがみられる。保護者や地域へ学校の取り組み状況等広報活動に努めること。
また、地域が学校にどのような形で協力できるのか、地域と共に考え、次年度以降も地域連携を深める努力を行っていくこと。
○学校協議会の活動等を保護者へ効果的に周知していくこと。
○情報発信に関して、ホームページのさらなる改善を行い、今後も更新努力を継続していくこと。
○学習指導においては、今年度も昨年度とほぼ同様、全般的に良好な評価である。生徒アンケート等を実施・分析を行い、次年度以降もより
高い水準を目指す改善努力を行っていくこと。
○道徳においては生徒の実態や状況に即して年間計画を立案し、授業だけではなく、すべての活動で更なる工夫・改善を図ること。
○教科「日本語」においては、共通理解をもち、研修等を通して指導の工夫・改善を強力に推し進め充実を図っていくこと。
○生活指導においては、昨年度より改善してきた様子がうかがえる。引き続き今の状態を維持していただきたい。また、一致した指導体制を
推進していくこと。
○学校行事においては、今年度も生徒の満足度は高い。引き続き授業(学習)も大切であるが、生徒の活動を確保し、より良い行事となることを
を目指すこと。
○相談活動においては、引き続き生徒の心を捉える体制を進め、生徒が安心してすごせるようにしていくこと。
○進路指導においては、キャリア教育(進路指導)=進学指導でなく、将来にわたり職業人として生きていく力を身につけることを、生徒・保護
者に理解できるよう、様々な機会をとらえて広報・周知していくこと。また、進路の情報提供にあたっては、保護者が何を求めているか情報
収集し、保護者のニーズに可能な限りこたえていく努力を行うこと。
○部活動等においては、生徒の生き生きとした活発な活動がみられる。今後も3年間を通じた生徒活動の充実を行うこと。
○学校の安全性、安全への配慮等は満たされているといえる。保護者へ様々な機会をとらえ積極的にアピールしていくこと。
○大規模災害の対応について、ホームページの活用等も含め保護者や地域に周知していくこと。
○生徒みんなが、学び舎の教育目標にある「自分大好き」と思えるようにするため、自己実現ができる機会を設定・活用し生徒一人一人が自己
有用感、自己肯定感を味わうことができるよう改善努力を行っていくこと。

5 総合所見

保護者アンケート・生徒アンケート・地域アンケート及び全方位的な点検・評価の実施、集計、分析とも適正に行われたといえる。

重点目標の数値を達成したことは学校の努力の成果であるといえる。また、昨年度重視した2年生の肯定的数値が1・3年よりも全体的に大きく
減少していたことが大きな課題としていたが、今年度改善したことでも学校の不断の努力の成果と言える。全方位的点検・評価において、多くの項目で評価が上がっているものの、昨年度も課題としたいいくつかの関連する項目で今年度も評価が共通して低い値のものがあり、さらなる改善策を講じていくことが必要である。

今後も校長が強力にリーダーシップを発揮し、重点的に改善策を講じていくことを望む。

一人一人の生徒のために、否定的評価に対してもその数値を減少させていくよう今後も最善を尽くしていくことをお願いする。

平成23年度 世田谷区立深沢中学校 学校関係者評価委員会

委員長 井坂 聰

(事務局)

委 員 伊藤 嘉信

高下 浩淳

浦松 純子

吉原 宏

菅田 輝代志

山本 勉

武田 泰子

管野 秀樹

山崎 正己